

令和7年度使用教科用図書の採択に係る会議録

令和6年7月17日(水)

午前9時30分～

坂祝町中央公民館 研修室

主席者	教育委員	金武 千秋
		古田 博英
		兼松 悟
		原口 かおり
	教育長	三品 芳則
教育委員会事務局	教育課長	堀部 芳章
	こども課長	岩井 正義
	教育課主幹	前田 加代子

議事 令和7年度使用教科用図書の採択について

※教育長が資料に基づいて報告をする。

金武教育委員 教科書がどのように選ばれているかの実態が分かりました。子どもの頃は教科書が選ばれていることも知りませんでした。どのような想いで採択されたのかを子どもたちに伝え、内容への思いが深まり、教科書を大事にしようとするのではないかと思います。

教育長 子どもたちには1年生のときなど、最初に教科書の説明をします。保護者に対しては説明の機会がないですが、9月1日以降に特定の場所にて公開されます。そのPRは必要かと思いました。

原口教育委員 先日教科書を見せて頂いたときに苦手な分野の教科書を見てみようと思い、古典を見てみましたが光村図書が入りこみやすいと思いました。誰もが分かる竹取物語を題材にしている、古典の入り口として良いと思いました。書道ではペン習字も載っていることに驚きました。昔の教科書は手本があり、それを見て書くだけでしたが、東京書籍は将来どのような場面でその文字を使うのかが書いてありました。数学についても東京書籍が分かり易く、関数などでも社会に出てどんな仕事でどこで使うのかが書いてあり、例えばディズニーランドの待ち時間の計算に使う関数など、実例もあり、良いと思いました。

教育長 小学校は学習の入り口、中学校は将来を見据えた学習というように作られていると思います。東京書籍の書写の教科書には左手に対応したもの

も載っていました。

古田教育委員 英語の教科書で、中学校の教科書に新出単語が載っているが、使ったことがない単語でも新出単語として載っていないことがありました。これは小学校と中学校で教科書の出版社が異なることが原因だと思います。教科書の使い方などは最初にやられるのでしょうか？

教育長 最初のオリエンテーションで行っていると思います。

兼松教育委員 最近の教科書は丁寧に作られていると思いました。二次元コードを読み込むと小学校の復習が出来るようになっていました。また、導入、深める、まとめる、発信する、という順序立てで構成されていました。戦争と平和ではパレスチナや竹島、北方領土などが書かれていました。基本的人権ではハンセン病を取り扱っていました。歴史では渋沢栄一が書かれており、社会ではAIを使った農業も書かれていました。教科書も以前と比べて変わってきたということを感じました。12÷3を解くにしても、12を3等分すると4という考えと、12の中に3は4つあるという考えがあり、指導書も活用してうまく教えてほしいと思います。

教育長 様々なご意見ありがとうございました。教科書にも1年ごとではなく、3年間で上下2巻で構成されているものもあります。先日の教育長会の中で6年度と7年度で教科書が変わったとき、上巻の途中までしか学習していないのに変わってしまうことが起きるがどうしたらよいかとの意見があり、確認したところ、上巻が終わるまでは前の教科書を使っても良いとのことでした。未履修の部分が出ないような配慮を行っています。では、採決をとります。議案について、承認することに異議はありませんでしょうか。

教育委員 異議なし。

教育長 異議なしと認めます。